

委員会名	2023 年度 第 7 回 生産技術委員会
開催日時	2024 年 3 月 8 日 15:00-17:30
開催場所	JAPEX 本社(Zoom ハイブリッド開催)
出席者 (敬称略)	(現地)吉岡委員長、山崎副委員長、桐山、久々宇、矢島、知識、谷口、飯野、多田 (オンライン)小林、上野、舟橋、阿部、安達、荒木、村井、佐藤、中島
議事	1. 事務連絡 出光・多田委員より、異動につき委員交代の挨拶が行われた。後任は現在調整中とのこと。 2. 幹事会報告 知識委員より第 11 回の幹事会の報告がなされた。 ●第 11 回幹事会議事録 議題 1. 第 88 期第 10 回幹事会議事録（確認事項） 議事録を確認、了承。 議題 2. 会員の異動 (令和 6 年 1 月 1 日～1 月 31 日) 入会：正会員 11 名 学生会員 4 名 退会：正会員 1 名、学生会員 1 名 総数は先月から+13 名で、1,656 人となった。 個人講演申し込みの際に、会員資格が必要なことから、会員数が増加したという側面がある。 議題 3. 令和 5 年度第 3 四半期月次決算（令和 6 年 1 月） 1 月末収支実績では、最終的に 779 千円程度マイナスとなった。一方、1 月末現在の累計収支実績ではおよそ 5,122 千円のプラスとなっている。 この他、特にコメント等なし。 議題 4. 令和 5 年度 3 月末決算（見込み） 当期はプラスとなる見込みであるが、各委員会の費用がこのあと支出に計上予定である。 雑費は 419 千円程度（予算 600 千円）の支出となっているが、今後法人化に関する調査費用および CCS 特集号に関する費用をここから捻出予定である。 また、雑費には、クレジットカード会社などへの手数料も含まれており、今後は手数料の少ない PayPay などの利用を検討していきたい。 議題 5. 第 89 回定時総会・90 周年記念式典：令和 6 年度春季講演会の件 5-1. 会告（案）First Announcement First Announcement のドラフト版であり、講演者名など打診中の部分もあるため、今後内容をブラッシュアップする予定である。 この会告案は次回の理事会で承認を得て、なるべく早くお知らせすることを念頭に、メールニュースでの共有、もしくは間に合えば協会誌の第 2 号に掲載する計画である。 功労者表彰は、人数的に多いため（歴代の理事など）、名簿の回覧などによる代替案（簡素化）を検討していきたい。これについては、理事会で確認予定である。また、評議会の開催日時については、講演会のスケジュールと併せて検討していく。 会社説明のセッション⑤では、男女問わず学生を対象として考えており、声掛けした各社から、積極的な参加意向が出ている。リコチャレに特化したイベント⑥についても、女性だけではなく、男性にも広げて進めるべきでは

ないかという意見があった。

学生の授業ならびに講演会のセッションにも時間的にかぶっているため、そのための配慮・工夫（ブースの設置、コアタイムなど）が必要と考えられる。一方、どの程度学生を集められるかわからないという点が懸念されるという意見があった。また、学生が来やすい状況（特にインターン情報の拡散）を作ることを念頭に進めることが肝心との意見があった。

参加予定各社の希望・要望や時間割（スケジュール）などについて、各社の人事関連担当者との打ち合わせをする予定である。

講演会への参加費については、会場参加者とオンライン参加者の参加費を同額にする前提で検討を進めている。（幹事会ではオンライン配信ありきの議論をしていた）

また、見学会の内、地質巡検は見送る方針（探鉱技術委員会 中村氏から説明あり）で、施設巡検のみとなる予定である。

5-2. 記念出版事業及びワーキンググループの立上げについて

CCS 特集号のためのワーキンググループのキックオフを開催した。基本的には編集委員会のスキームに沿うが、体制などの詳細はワーキンググループで検討する。

記念出版事業として 1,350 万円の特別会計を計上しており、賛助会員からの寄付金を募る予定で、令和 6 年度中の発行を目指す方針である。既往文献調査に関しては、学生に調査を外注する計画（～3 月下旬）であり、この件に関する作業費や資機材費用（約 20 万円）も計上している。

議題 6. 将来像検討会議について（経緯・予定及び進捗状況）

検討委員会は、各課題のアイデア出しから始まり、それらを実行する段階となったことを受けて、4 月の幹事会をもって解散する方針である。

法人化については、これまでの経緯などがわかるように取り纏めたうえで、2 月の理事会で説明したのち設立準備を開始する。4 月の理事会までの間に、必要に応じて特別理事会を開催することも念頭に、総会（6 月）において議案とするために、審議を進める計画である。これに対し、スケジュール的にやや拙速ではないかという意見があった。

必要な費用についても、理事会に示していく予定であるが、事務費用が増えることもあり、業務効率化に取り組む必要がある。

業務効率化の一つとして、データをクラウド上に載せ、データアクセス権を幹事・各委員会役職者へデータ共有により問合業務の削減による業務の効率化を図ることを提案中。

● JAPT の謝礼の内規について：

探鉱技術委員会より、現行の“3 万円を限度”は、実情にあっておらず、5 万円への変更を検討いただきたいとの問題提起があった。引き続き、他学会の謝礼の相場などの情報を収集して対応を検討する。この件に併せて、会則・内規の変更案のたたき台について、小寺会長より紹介があった。今後、議論を進める予定である。

【Q&A】

Q（谷口）：4 月を以て解散する、将来像検討委員会の結果・成果として得られたことは何か？

A（知識）：石油技術協会の名称を変更することはせず、ミッションについて各委員と議論することで変更することが出来た。一方で、現状の体制について法人化をベースに志向することが今後の幹事会のタスクになる。

法人化で大きく費用が増えるわけではない。法人化のメリットや費用対効果を示して、少しずつ進めていきたい。

C（吉岡）：資金調達の面での効果が十分にあることなど、十分な利益貢献が得られると考えられる。

3. 理事会報告

- 春季講演会について

89 回定時総会：会場開催 / オンライン配信

90 周年記念講演：会場開催 / オンライン配信 / オンデマンド配信

METI 佐伯室長、松岡先生、(国際エネルギー情勢に関する講演)

記念式典(「周年出版物に見る石油技術協会の歩み」)・祝賀会：会場開催

春季講演会_シンポジウム：会場開催 / オンライン配信 / オンデマンド配信

地質探鉱部門 シンポジウムテーマ「岩石物理学・E&P 事業における成果と脱素社会へ向けた新展開」

個人講演は会場開催のみ

参加費案：現地参加、オンライン参加とも 6000 円

記念出版：CCS 特集号 各部門の特集号が出た後の 2024 年末か 2025 年 1 月を目指して進める

【Q&A】

Q (矢島)：個人講演は会場開催のみであるにもかかわらず、現地参加・オンライン参加とも 6000 円となっているが、この点はどうか？

A (吉岡委員長)：確認する。個人講演もオンライン配信する可能性もある

⇒確認後：個人講演ではオンライン配信を実施

- 法人化について

非営利型一般社団法人化による御利益として以下の 3 点が挙げられる

① 組織運営の正式化と信用の向上

② 資金調達能力の向上

③ 協会活動が生み出した知識・技術の社会還元

調整事項は山積しており、理事会での承認は見送り

石鉱連からの補助金は減る方向にあり、業務効率化は喫緊の課題

⇒次回の幹事会での議題として挙げられる予定。

- 令和 5 年度秋季講演会 (アンケート報告)

16 件の回答で回収方法に課題残る

【Q&A】

Q：アンケートはどのような形式で集められたのか

A：QR コードを読み取る形式であり、春季講演会と同様の形式である。

Q：春季講演会はどれくらい集まったのか

A：部門によって異なるかと思うが、生産部門は 27 件集まっている。

C：集まっている年齢層が異なるので集計方法を考えなければならない

- 将来像検討会議について (継続)

他分野・学術協会との積極的な協働

① 地球惑星科学連合大会での CCS 共催セッション参加およびブース展示

CCS 事業紹介：JAPT, JOGMEC, JX, JAPEX 各 1 件

個別要素技術：JAPEX 3 件、JGI 2 件、(INPEX 1 件: 他セッションから漏れた場合)

② 日本地下水学会との WS (5/25 開催)

【Q&A】

Q：JpGU に関するセッションで各委員会への動き出しの依頼はあるのか？

A：現状特に無し。ブース展示は低費用の学協会ディスクを選択して、2 日 (5/26, 28)のみ、少人数での対応予定。

- 春季講演会の見学会について

千葉エリアで探しているが、コロナ禍以降は工場見学自体が難しくなっている。午前に SHIRASE、午後に JFE スチール東日本製鉄所千葉地区で企画中である。

*スケジュールがタイトで、バス移動中(SHIRASE⇒JFE スチール)に車内で昼食(各自調達)を取ってもらう予定

4. 春季講演会対応状況について

山崎副委員長より、シンポジウムの準備状況について報告された。

- ・ CCS 委員会との合同による開催を志向し、プログラムの素案完成
- ・ 吉岡委員長と CCS 委員会・長縄委員長と連名にて、依頼状を送付済(3/7)

【Q&A】

C：パネルディスカッションの時間数については 2023 年度よりも短いものの、実績としては時間が余る傾向にあり、会場からの発言を募った経緯がある。その点を勘案すると、本プログラムの時間割は妥当であると判断する。

Q（久々宇）：シンポジウム原稿の取りまとめは CCS 委員会とどういう分担でやるのか

A（吉岡）：とりまとめは生産技術委員とするほうが円滑に進むと思う。査読対応などで分担して貰うのがいいのではないかな。

Q（谷口）：プログラム概要欄にデジタル(DX)に関する記述がないので入れていただきたい。

A（山崎）：承知した。修文する。

久々宇委員より個人講演の準備状況について報告された。

- ・ 現在アジェンダ作成中。現状のままだと口頭発表希望が多く終演時間が遅くなるので対応を検討中。

C（荒木）：HSE 部門の講演終了後が使えるかもしれない。

進め方案として提案されたコメントは以下の通り。

①HSE の個人講演に使用している会議室を一部利用できるか、事務局に確認する。

②講演時間の調整（発表 15 分と質疑 2 分など）

③ポスターへの振り分けなど

C（吉岡）表彰について、CCS 委員会でも実施と聞いている。探鉱や作井も含めて CCS のテーマ全体からの選考の可能性も考えられる。開発生産は従来通りの選考方法でもよいかもしれない。

C（久々宇）：現時点で CCS をテーマとした口頭発表は一方の会場にかためる方針である。

5. 次年度の委員会開催日・場所について

第 1 回開催日程を変更：5 月 2 日（木）→5 月 9 日（木）

※GW 中日であるため

第 6 回の開催場所は JOE で調整中

		2024 予定		2023
	第 1 回	5 月 9 日 (木)	JOGMEC	JOGMEC (ハイブリッド)
	第 2 回	7 月 4 日 (木)	INPEX	INPEX (ハイブリッド)
	第 3 回	9 月 5 日 (木)	JX	JX (ハイブリッド)
	第 4 回	11 月 1 日 (金)	東北大学	九州大学 (ハイブリッド)
	第 5 回	12 月 6 日 (金)	秋田大学	京都大学 (ハイブリッド)
	第 6 回	1 月 9 日 (木)	JOE	出光 (ハイブリッド)
	第 7 回	3 月 6 日 (木)	JAPEX	JAPEX (ハイブリッド)
	6. 話題提供 数理最適化の取り組み紹介（技術本部・評価技術部貯留層技術グループ 長谷川智紀）			
	以上			